

作品賞

キューピー株式会社 仙川キューポート

建築主：キューピー株式会社 長谷部敏朗

設計者：株式会社日建設計 小板橋裕一、柳原雅直

施工者：大成建設株式会社 喜田浩司



エントランスファサード (撮影：堀内広治)

建築概要

建設地：東京都調布市

建築主：キューピー株式会社

設計：株式会社日建設計

施工：大成建設株式会社

建築面積：6,650.77m² 延床面積：29,249.12m²

階数：地上5階、地下1階 高さ：24.8m

構造種別：鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造

選評

三角形のアウトフレームをもつ建築は他に類例を見ないわけではない。ただし鋼板を内蔵したPCa柱の施工精度は並大抵のものではないし、外壁面に直交する大梁とPCa柱に内蔵された鋼板の接合高さを調整することで内部の階高が均一でなくとも均一な格子形状を実現しているというエンジニアリング上の工夫にも頭が下がる。オフィスフロアと研究フロアを交互に配することで、アウトフレームの格子形状に利するだけでなく、建築計画上もきわめてユニークな研究・業務拠点を作り上げた。カーンのソーク生物学研究所は今日でも400名のスタッフが研究に従事しきわめて汎用性の高い研究拠点として活用されているが、kewportの階構成はソークの"interstitial space"にも匹敵するかもしれない。免震構造について言うならば、中低層の建物であるし、各階約6,400m²の六角形平面の外周は上述のアウトフレーム架構されていることからしても、免震装置なくともかなりの耐震性能は確保できると考えられるが、むしろ免震構造を前提とすることで、さらなる安全性の確保（本社機能、地域の防災拠点）と上部構造のスリム化などデザイン性の向上を達成することができたのだろう。六角形平面は方向感覚がとりにくい場合があるといわれたが、回遊型と考えればさほど違和感はなかった。計画、構造、施工、そのどれを見ても全方位的に完成度の高い作品である。

(渡邊真理)

免震化した経緯及び企画設計等

仙川キューポートには、首都圏に点在していたグループ会社等17事業所と研究開発部門も入居している。本社機能を有する事業所も入居している点からも、入居にあたりBCP対策が必要不可欠であり、高い耐震性能を確保する構造の提案を求められた。これに対して、下記特徴を有する免震構造を採用することで、耐震性の高い建物を実現した。

- ・建物外周の全周に鋼板内蔵プレキャストコンクリート造の柱(PCa柱)を格子状に配することにより、ブレース効果を有した外周架構(アウトフレーム)を実現し、十分な建物の剛性を確保していること。
- ・外装材を兼用するアウトフレームは、実大実験などにより外装材としての機能も満足することを確認していること。

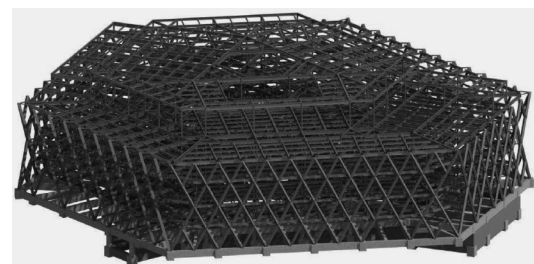
技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

免震層の計画として、建物外周部に鋼材ダンパー一体型天然ゴム系積層ゴムアイソレータを配置し、十分なねじれ剛性を確保し、その他の部位においても鋼材ダンパー一体型を適所に集約することにより、免震層のメンテナンスしやすい計画としている。

鋼板を内蔵したプレキャスト格子柱のアウトフレームを「魅せる柱」として、格子の交点部分についてディテールの工夫を行うことにより、均一な格子形状架構を実現している。



建物外観 (撮影：堀内広治)



構造パース (BIMモデル)